

平成30年台風24号における 由良川流域の状況

- 平成30年台風24号の出水状況
- 河川改修による効果
- 地盤高・感潮区間
- 気候変動の影響(潮位)

鳥取県 中部県土整備局
令和元年5月

平成30年台風24号の出水状況(降雨)

期間 : 平成30年9月29日から10月1日にかけて

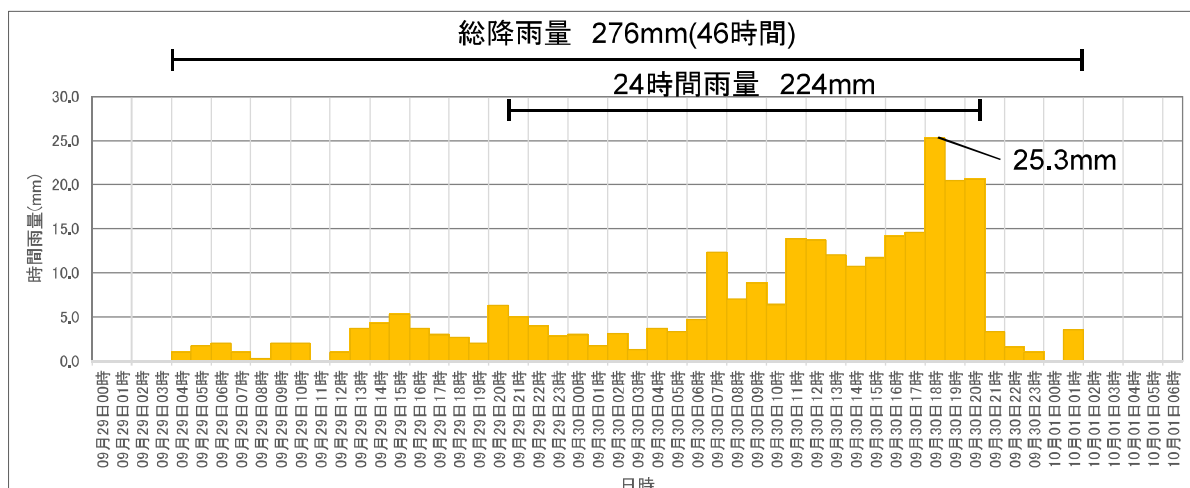
気象現象 : 台風24号と前線

降雨継続時間 : 46時間

総降雨量 : 276mm

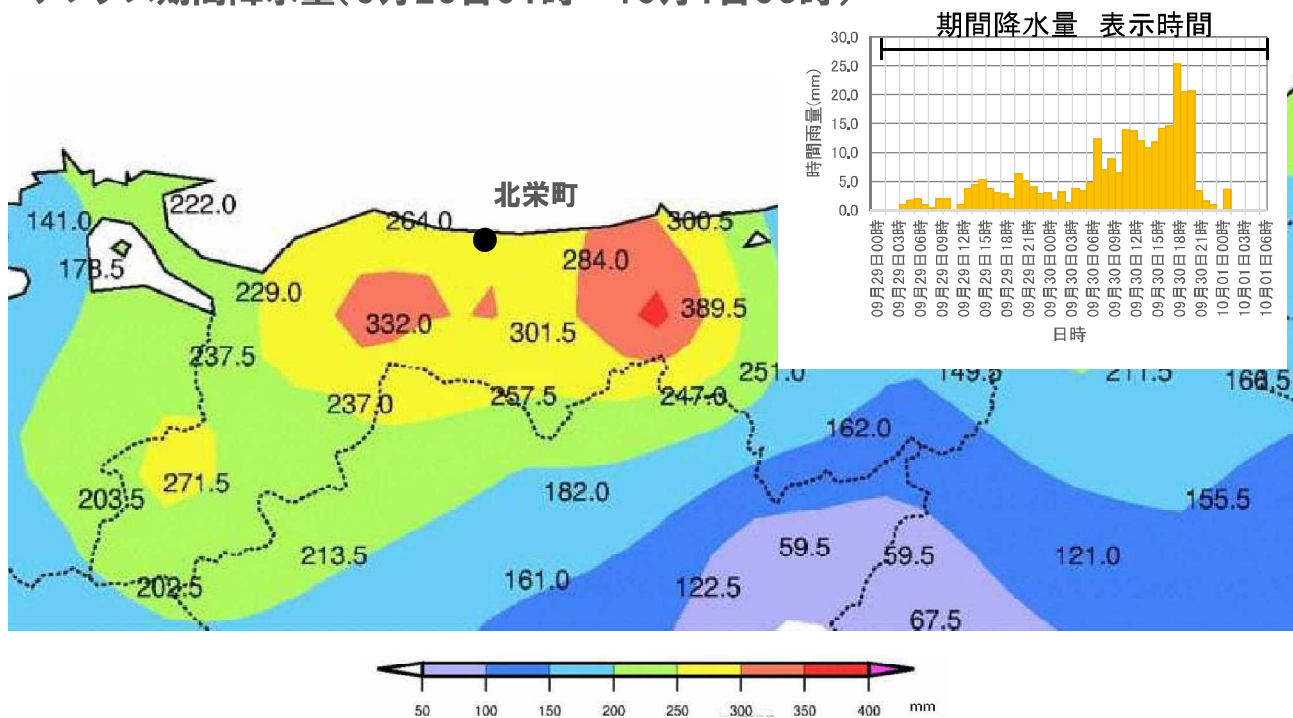
24時間雨量 : 224mm(1/20年確率)

(参考) 昭和62年台風19号 24時間雨量:292mm(1/70年確率)



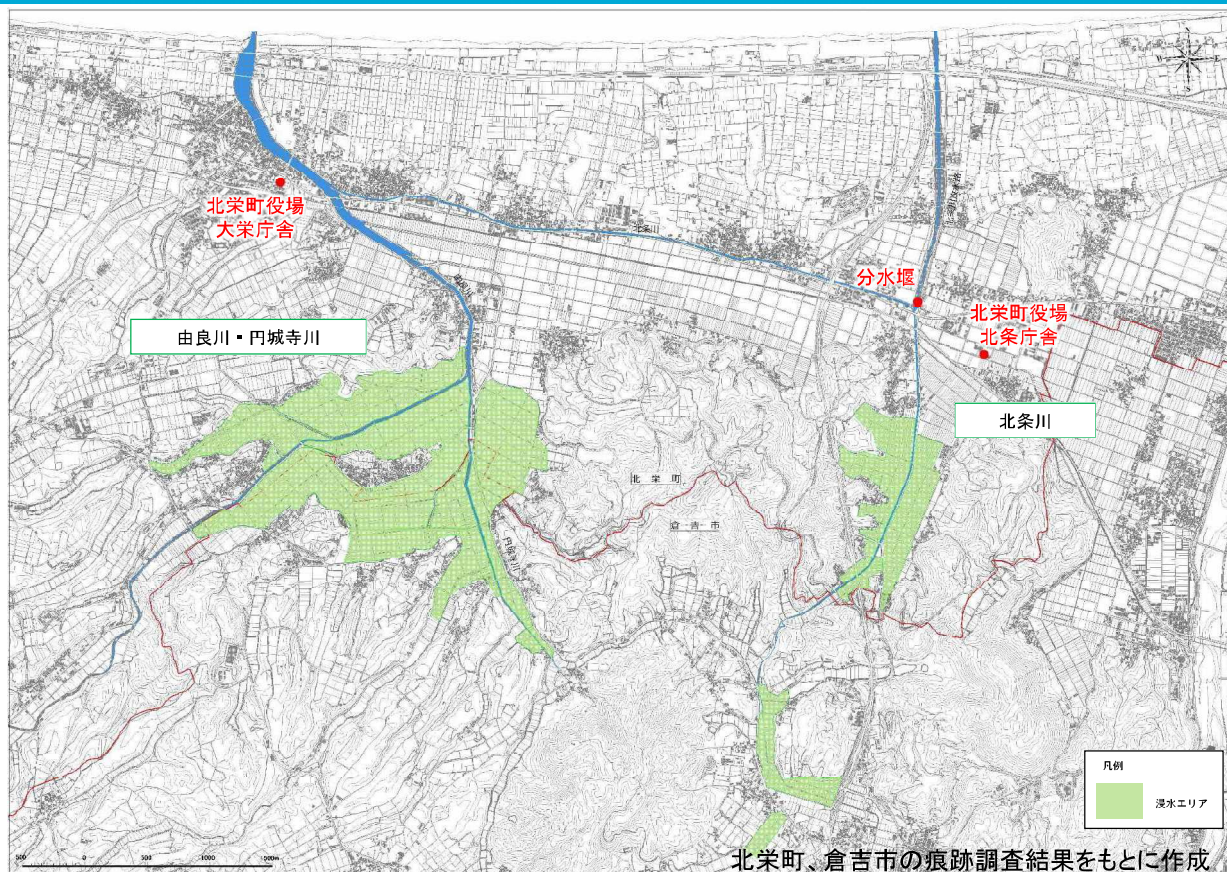
平成30年台風24号の出水状況（総降雨量）

アメダス期間降水量(9月29日01時～10月1日06時)



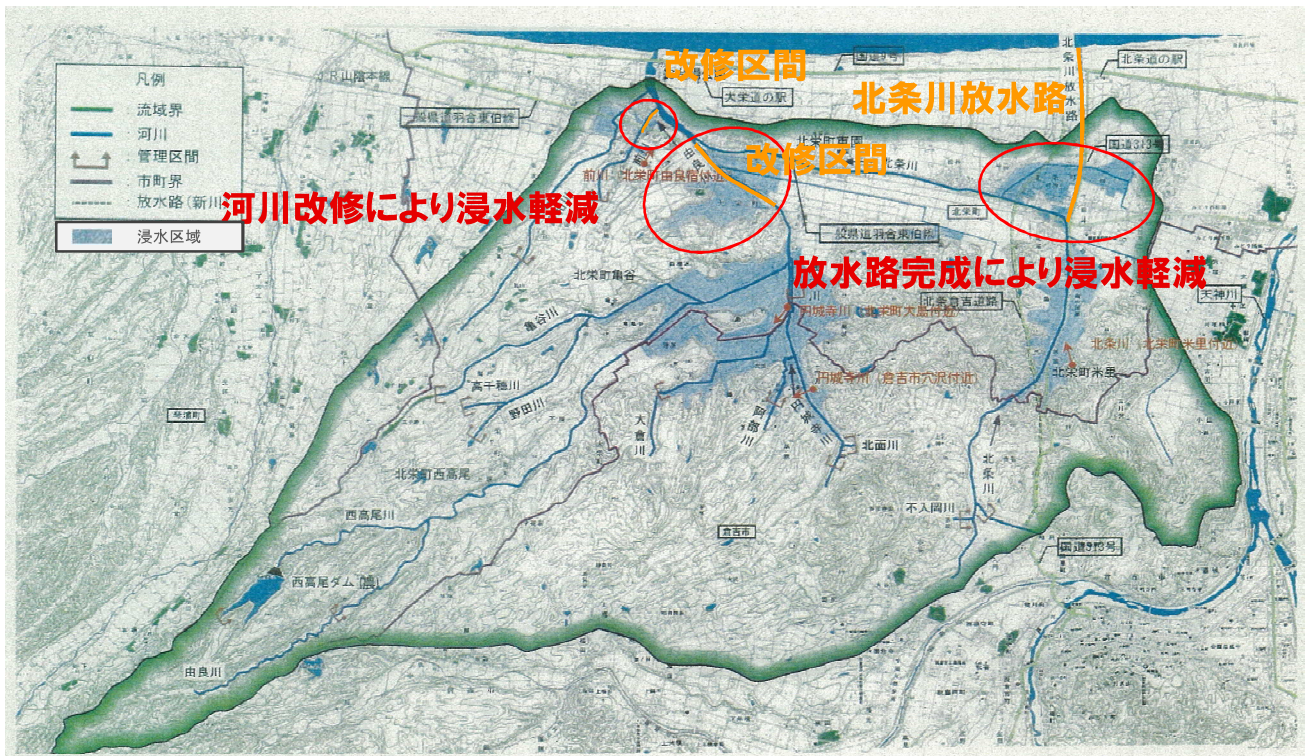
出典: 気象速報 鳥取地方気象台

平成30年台風24号の出水状況（浸水エリア（痕跡調査より））



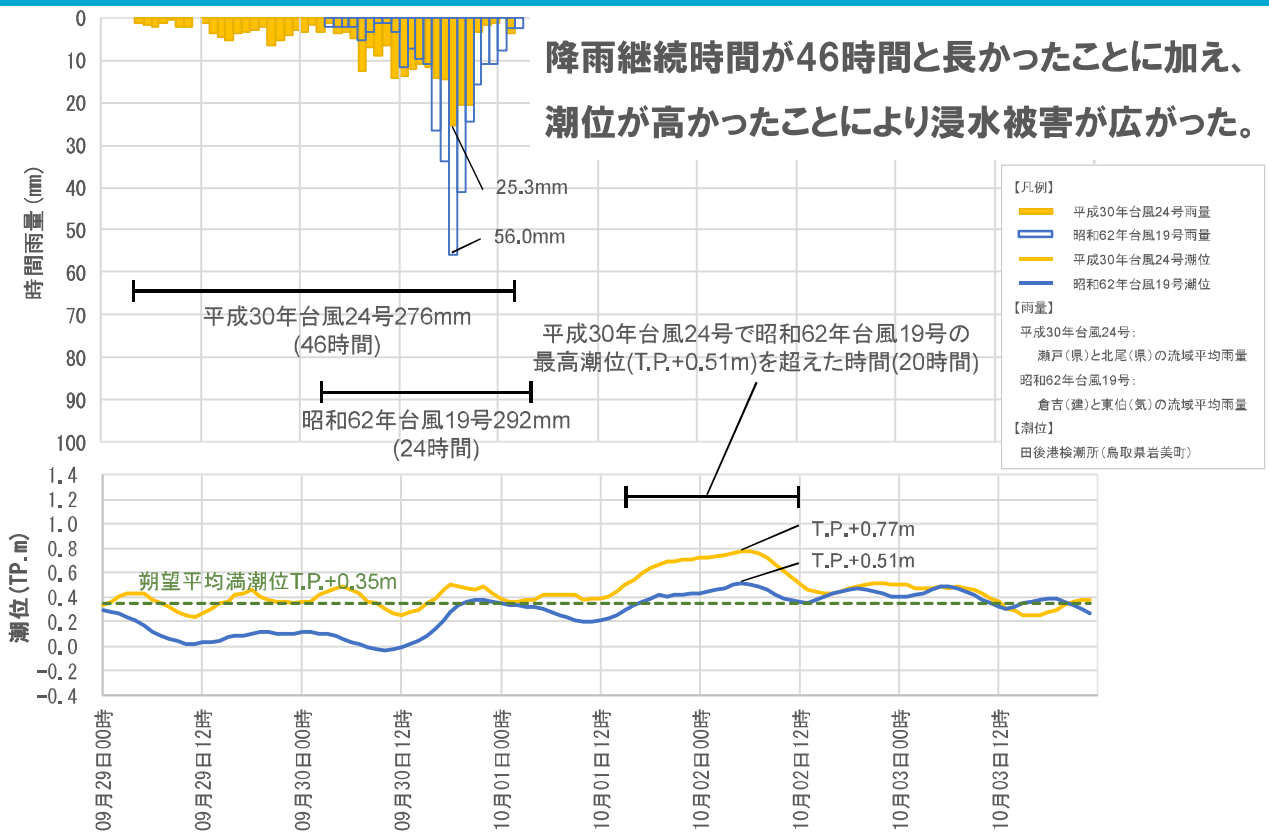
由良川流域の河川改修による効果 (対:昭和62年 台風19号 浸水状況)

昭和62年10月15～18日 台風19号 浸水状況(浸水実績状況図)



出典: H19由良川水系河川整備計画(案)p.6

平成30年台風24号の出水状況 (降雨・潮位)



※昭和62年台風19号雨量および潮位をピーク合わせて平成30年台風19号の時間軸上に表示

由良川流域の地盤高・感潮区間

由良川流域には
地盤高の低い箇所があり、
潮位の変化による
浸水の影響を受けやすい。

※感潮区間(潮位の影響を受けやすい区間)⇒平成30年台風24号の出水状況の検証結果に基づいたもの

※地盤高の凡例↓↓↓

凡例	
	1.0m以上の区域
	0.8~0.9m未満の区域
	0.7~0.8m未満の区域
	0.6~0.7m未満の区域
	0.5~0.6m未満の区域
	0.4~0.5m未満の区域
	0.3~0.4m以上の区域
	0.2~0.3m未満の区域
	0.1~0.2m未満の区域
	0.0~0.1m以上の区域



6

気候変動の影響(潮位)

1997年以降の天文潮位を対象に、過去の夏季高潮位3周期分(43日間)の満潮時平均潮位を図に示す。

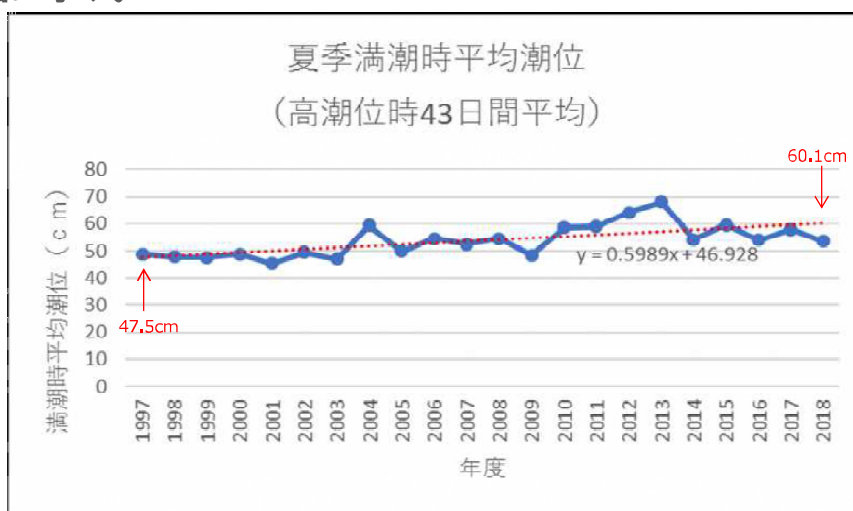


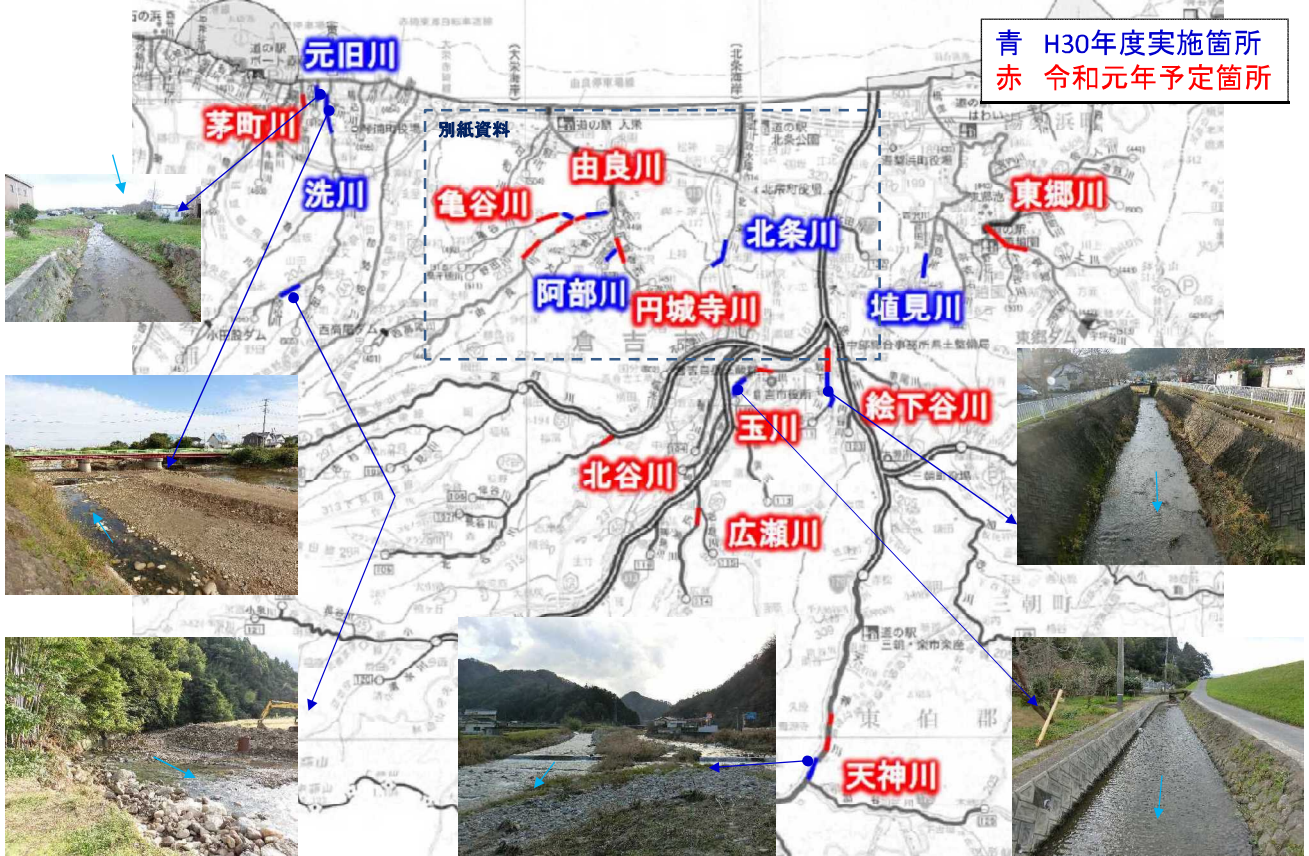
図 夏季満潮時平均潮位(境港)

年度により潮位の上下動はあるが、潮位は年々上昇傾向にあると確認できる。
(近似曲線値:1997年47.5cm、2018年60.1cm 21年間で12.6cm潮位上昇)
気候変動の影響もあり、南太平洋の島々では島自体の存続が問題視されるなど、
昨今、海面上昇は大きな問題となっている。
21年間で12.6cm潮位上昇は、由良川の塩水遡上に大きな影響を与えている。

7

浸水害への対応(河床掘削)

平成30年7月豪雨や台風24号による浸水区域や異常堆積した河川の河床掘削を実施しています。



由良川・北条川の浸水害への対応(由良川水系)

由良川及び北条川流域では、台風24号により大規模な浸水害が発生し、広範囲で河床掘削を実施しています。

